

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 3-27	第1回墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会		
開催日時	平成18年8月10日(木) 午後3時15分から 午後4時45分まで			
開催場所	墨田区役所17F 墨田区議会第一委員会室			
出席者数	委員11人(小出治 青山侷 松川淳子 加藤仁美 篠崎道彦 岡本博 小菅崇行 岸成行 須賀武田中進 渡会順久) 区長 (山崎昇)			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	傍聴者数	—	
議題	1. 墨田区都市計画マスタープラン改定の方針(案)について 2. その他			
配付資料	1 第1回墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会資料 2 墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会設置要綱 3 墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会委員名簿 4 審議会等の会議の公開に関する基準の概要 5 墨田区都市計画マスタープラン本文・概要版(平成10年3月) 6 墨田区基本構想 7 押上・業平橋地区まちづくりランドデザイン中間のまとめ 8 墨田区の現況(基礎データ) 参考 都市計画図(1/20,000)			
会議概要	1. 墨田区都市計画マスタープラン改定の方針(案)について ・事務局より改定の方針などに関する現在の方向性を説明した。 2. その他 ・委員長として小出委員、副委員長として青山委員を選出した ・自己紹介も兼ねて各委員の考える改定のポイントや問題意識について議論を行った。			
所管課	都市計画課(内線3904)			

第1回 墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会 議事録

小出委員長 初めての会合なので自由にご発言いただければと思います。区長からも指摘のあった景観や、高齢化をどう捉えていくのかといった様々な視点があると思いますがいかがでしょうか。所信表明と言うことでも結構です。

岸委員 亀沢町に生まれて、現在も父や子供達と6人で亀沢町に暮らしています。最近子供と会話をする中で自分の思い出と彼らを感じているものがだぶることを知り、父から聞いた話、自分の思い出、子供の言うことが大きな時間の流れの中でつながっている、まちと人のつながりというのはそういうことかと実感しました。そういう意味では、タワーができることでうかれているだけでなく、それが生活者である区民にとってどのような効果があるのかを良く議論していかなければいけないと思います。また、都市計画というとどうしても地図を広げて上から眺めるような見方をしがちですが、墨田区には色々なまちがあり、それぞれに職住商工が混在しているため、まちを歩く我々の目線からのまちづくりを、地域の皆さんの声を拾うようなやり方を考える必要があるのではないかと考えています。例えば、毎日通勤や通学ではどんな道を通りそこには何があるか、どんな問題があるか。そういうところから、都市計画だけでなく教育や防犯、交通など色々な視点をすりあわせることで具体的なまちの姿を示すことができないうか。基本構想に書かれている“すみだらしさ”が具体的にどんなものであるのかを区民に対して明らかにする必要がある。そんなことを感じています。

小出委員長 具体的な課題を総合的に精査して、計画に落とし込んでいこうということでしょうか。これから検証作業が始まる中で、今までの計画やまちづくりに対する評価を行っていくので、今のような話も出てくるかも知れません。個人的には方針の中に新しさを加えても良いと思っている。他の方はいかがでしょうか。

松川委員 墨田区と縁もゆかりもない時分には美しいところというイメージだけを持っていましたが、平成2年頃から墨田女性センターの活動に関わるようになり、色々な表情を持っているところだということが分かってきました。女性センターではまちを知ろうというテーマで色々なところを区民の方々と歩くということも行っているのですが、タワーに関しては皆さん期待だけでなく、どうなるのだろうという恐れに似た感情を持っているように感じています。また、基本構想に示されている“水と歴史のハーモニー”に関しても新タワーはかなりの影響力を持っています。計画には、水や歴史を感じる生活を具体的にどのように実現していくかということも示して行かなければならないと思っています。

小出委員長 篠崎委員はいかがでしょう。

篠崎委員 景観法の施行により、ここ1、2年“景観まちづくり”が各地で実践されています。これは先ほども話にあった地図上の計画だけではなく、景観という目に見えるものをきっかけとしてまちづくりの取り組みが広がっていると捉えることができますが、一方では、はっきりと目に見えるだけに多様な価値観をどのようにまとめていくかという課題も明らかになっています。今回の都市計画マスタープランの改定の中では、墨田区の景観のあり方に加えて、墨田区として景観法などを使ってどのように景観づくりを進めていくのかといった手順もあわせて検討しておく必要があると思っています。

小出委員長 景観法をどのように扱うかというのはいずれ整理しなければならない課題だと私も思っています。また、景観づくりの手段にも景観と絡んだ個別の事業や地区計画、あるいは新タワーを活用したやり方など色々な方法が考えられますが、墨田区としてどんな考えを持っているかを多少でも示してもらえると検討がしやすいと思いますので、次回以降よろしくお願ひします。

須賀委員 私は住民として参加していますが、色々な説明を聞く中で方向性を絞らないと議論にならないのではないかと感想を持ちました。私も30年近く墨田区に暮らしてきて、すみだの歴史や文化、その変化を体験していますが、歴史や文化を中心とした考え方から新しいプランを模索していくのか、新タワーを中心として景観づくりをやっていくのか、どちらかを明確にしていきたいと思っています。

小出委員長 これからアンケート調査を実施するということが、どのような内容になるのかを簡単に説明していただきたい。

事務局 一般区民、商店、事業所向けのアンケートをそれぞれ3,000通、1,000通、1,000通、小・中学生向けのアンケートを各校の5年生1クラスずつと各校の中学2年生2クラスずつ、合計4種類の実施を計画しています。主な質問項目として、現行計画をどのように評価しているのか、将来の墨田区をどのようにイメージしているのか、新タワーに何を期待しているのか、を尋ねるものとなっています。

小出委員長 アンケートとあわせてワークショップも地元の考え方、生活の視点を反映するために必要な作業ではないでしょうか。実際には、ワークショップとは何か、都市計画マスタープランとは何か、というところから説明をするとかかなりの時間がかかるのではないかと考えています。地域に根ざした区民の意見をどのように地図に落とし込んでいくのかについても良く考えておいていただきたい。

岡本委員 在住、在勤で祖父の代から墨田区で生活しています。今日はまだ感想のようなものになってしまうのですが、墨田区に非常に愛着を持っている私も、すみだの風景とは、すみだらしさとは、と問われると返答に困ってしまうところがあると思いました。また、先ほど住民は変化を恐れ、新しいものを敬遠するという発言がありましたが、その通りだと思います。タワーありきで新しいまちづくりと言われると、表参道や六本木のようなまちはいらないということで皆なんとなく反対という構図になりますが、反対に、防災という切り口の場合には、まちを守るという明確な方向性を持っているため分かりやすく、まちづくりに参加するきっかけとなりやすいのではないのでしょうか。その中で、例えば亀戸のサンストリートなどは成功した再開発事例と聞いていますが、地元の方が地権者として関わっているせいかイベントなどが良く行われ、行くと非常に賑わっています。そういうところにヒントを求めながら、区民がどのようにしたら参加意識を持てるか、リアリティを感じられるような計画づくりができるかということを考えていきたいと思っています。

小出委員長 基本構想やマスタープランという名称自体が分かりにくいという問題もあるかと思いますが。さらに、その計画の中で何を決めてどの位の実効性があるか、個別の施策間にどのようなつながりがあるか、ということもなかなか伝わってこない。見せ方の工夫なども今後考えていかなければいけないことだと思います。

加藤委員 私の考える都市計画マスタープランはまちの形を表現するものです。流れる時間の中でまちの形や風景をどのように子供達に伝えていくかということが重要な役割だと思っています。ワークショップでは、そのような視点で、地域別にかなり細かく、丁寧に検討を進めいく必要があるのではないのでしょうか。そのような進め方をする中で区民が新タワーに望むものを拾い上げたり、新タワーに対する不安を解消することができるかも知れません。しっかりとした区民参加が可能なスケジュールの設定もお願いします。まちの形を練り上げるプロセスとしてワークショップについてコメントしましたが、その実現化にあたっては、1つの手段として地区計画の策定に取り組んでいただきたいと思っています。実際には地区計画をかけるまで至らないことも多いのですが、墨田区は区内に広くかけることを考えているようなので、地区計画の策定を見据えてまちの形や景観を考えていければ良いのではないのでしょうか。まちづくり条例をつくったということもあるのですが、都市計画マスタープランの改定にあたってこのようなスタンスで取り組めればよいと思っています。

小出委員長 ワークショップの進め方に関する意見だったと思いますが、既に考えていることがあれば少し説明をお願いします。

コンサル 今回実施するワークショップを地域からのボトムアップ型まちづくりの起点にしたいと考えています。そのためには地域別構想を時間をかけて練り上げることがまず必要だと認識しています。また、地域別の計画を区全体のものにまとめる際に、地域間のズレなど調整しなければいけない箇所が発生するかと思います。これを分野別の計画に組み替えてワークショップに再提示するという手続きを取ることで、個別の施策間のつながりなどが地域の方にも見えてくるのではないかと考えています。現在は、ワークショップ参加者の公募が思うように進んでいないため、地域毎にバランス良く参加者を集める点を苦慮しています。

小出委員長 まちづくり条例もあることなので、地域の既存組織から参加者が出るというのが理想的だと思います。参加者の確保にも力を入れて頑張ってください。

青山副委員長 景観や防災が検討項目として取り上げられていますが、それらに共通する“水”が1つ全体を貫くテーマとしてあげられるのではないかと思います。墨田区は雨水利用で先進的な取り組みがあり、もちろんこれは無視できませんが、更に、水を活用した省エネという 21 世紀的な課題に対してまちづくりの中でどう取り組んでいくのかという視点が必要ではないのでしょうか。それからもう1点、現行の計画を策定したのは東京都が多心型都市構造論を打ち出していた時期ですが、当該計画は新宿と臨海という2大エリアに加え多数の場所を副都心として取り上げており、やや多すぎる感のあるものでした。墨田区は副都心という扱いを過大に受け止めて冷静に現状を捉えたいという思いをしていますが、この度、都のマスタープランも作り替えられ、区全体の都市構造を考え直す良い機会であると思っています。

小出委員長 私からも1点言っておきたいと思っています。今後区内の人口がどう変化していくのか詳細は分かりませんが、外来者が増えることは間違いありません。この受け入れをどう考えるかが大きな課題ではないでしょうか。墨田区としては中小事業所、工業との共存という方向性が示されていますが、実際には、準工業地域の中のマンションなど色々と問題を起こっています。一度考え方の再整理を行わないと、優れた立地条件から、外からの圧力によってなし崩しになってしまうことも考えられます。工場や伝統を見捨てる訳ではありませんが、都市計画として何らかの線を引けないかというのが私の考えです。第1回目ということで希望的なことを言わせてもらいました。今後はタフなスケジュールになるとと思いますが、会議の運営の仕方やワークショップの進め方、どんな議論をすべきかなど事務局に要望しながら検討を進めていきたいと思っています。次回の予定はどうなっているのでしょうか。

事務局 第2回は10月上旬の開催を予定しています。本日お配りした日程調整表に希望を記入していただき開催日を決定したいと思っています。それまでに資料等のリクエストがあれば事務局まで連絡をお願いいたします。

青山副委員長 次回以降の委員会では、現行の計画で言うところの“連携軸”や“まちづくりの状況”の絵をどう描くか、これからどう動いていくかを議論する必要があると考えています。そのための前提として、墨田区内の主要交通軸と人や物の流れ、通勤客や車などの通過交通の流れなどに関する既存のデータがあれば、大まかな物でよいので用意して欲しい。

加藤委員 次回の委員会ではワークショップの進め方について説明をお願いします。また、ワークショップ参加者の募集にあたっては、しっかりした町内会組織があるので、このようなところに積極的に働きかけを行って区民の意向をきちんと聞けるようにしていただきたいと思います。

事務局 現在応募者は4人という状況ですが、区内にはまちづくり条例に基づく登録団体が3つあるほか、多数の組織、団体が存在します。参加者の募集にあたってはそのようなところにも働きかけを行って、地域毎にバランス良く参加者を集めたいと思っています。次回の委員会ではそのあたりについても報告いたします。

小出委員長 他には注文などございませんか。それでは、これもちまして第1回墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会を閉会します。どうもありがとうございました。